

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和4年1月号



令和4年の新春を迎えて

公益社団法人千葉県園芸協会
理事長 江波戸一治

明けましておめでとうございます。

皆さまには、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、会員の皆さま方には、日頃、当協会の業務運営に多大なる御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本県は、温暖な気候と大消費地の首都圏に位置する恵まれた立地条件に加え、生産者の高い技術とたゆまぬ努力に支えられ、全国屈指の園芸農業県として発展しております。

しかしながら、近年は、大規模な自然災害の頻発や、家畜伝染病、新型コロナウイルス感染症の蔓延などにより、本県の農林水産業は大きな被害を受けており、農業者の経営にも大きなダメージを与えております。

今後は、生産基盤の一層の強化や担い手の確保に向けた重点的な取組が求められますが、このような時にこそ、千葉県農業の高い潜在能力を生かし、国内外の競争に打ち勝てる力強い産地づくりに向け、生産者、JA、行政機関、関係団体が一丸となって取り組む「産地間の連携」が重要と考えています。

本県園芸産出額の約6割を占める野菜では、近年増加している量販店などの大口需要に対応するための生産力・販売力の強化が喫緊の課題となっておりますが、当協会では、県内産地が戦略的に連携し、オール千葉体制で取り組む園芸産地活性化事業（通称：産地連携事業）を基幹事業とし、精力的に取り組んでいます。

生産力の強化では、栽培技術向上のための実証試験や新産地の育成に向けた取組などに加え、スマート農業を推進するための研修会や現地検討会も開催しています。また、販売力の強化では、出荷規格の統一などを推進するとともに、新たな販路拡大を目的に、昨年12月、大阪を中心とした近畿地域において千葉県フェアを開催しました。

県内の主要な産地農協や関係組織が集結し、オール千葉体制での近畿地域への売り込みは今回が初めてとなります。今後も関係機関との連携を密にし、産地の支援に積極的に取り組んでまいります。

また、農地中間管理事業では、新型コロナウイルス感染症の影響により推進活動に多少の影響は出ておりますが、令和2年度における担い手への転貸実績は前年に比べ3割増となっております。今後も意欲ある担い手への農地集積を推進し、地域農業の将来を担う経営体を育成してまいります。

その他、青年農業者等育成事業や6次産業化推進事業、野菜価格補償事業等、各種事業にも責任をもって取り組んでおり、今後も農業者の経営安定と所得向上に努めてまいりますので、関係者の皆様にはより一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

終わりに、皆さま方の御健勝、御活躍をお祈り申し上げます。年頭の御挨拶とさせていただきます。

頑張る産地



幸水の花

夏の到来を告げる一宮町の「ながいき梨」

長生農業事務所 改良普及課
主任上席普及指導員 岩瀬 裕子

一宮町で生産される梨は一宮町に在るJAグリーンウェーブ長生で集荷・調製され、味・品質に優れた「ながいき梨」として市場出荷されています。温暖な気候と簡易被覆栽培により県内で一番早い「幸水」の産地として市場からはブランド産地の高評価を得ています。

1 地域概要

一宮町は外洋を黒潮が流れているため、春の訪れが早く、平均気温15.7℃と温暖な気候です。年間平均降水量は1,684mmで海風により湿度が高く、雨量は10月に台風の影響を受け最大となりますが「幸水」の出荷は8月中旬で終了するため大きな被害はありません。主力の「幸水」は花芽の付きは良く開花が県内で一番早い一方、粘質土壌の水田転換畑が多いため、樹勢は弱くなりがちですが、篤農技術の伝承により高品質生産の産地として維持されています。

2 産地の概要

一宮町の梨組合は平成17年に隣接するいすみ市岬町の組合と合併し、「一宮・岬梨組合」となり市場出荷の維持強化を図ってきました。令和2年の一宮町の組合員数は35名、栽培面積27haです。出荷品種構成は「幸水」68%・「豊水」22%・「あきづき」7%・「新高」3%です。集荷・調製するJAグリーンウェーブ長生の選果機は光センサー搭載の最新機種で「芯腐れ症」や「みつ症」の判別に効果を発揮し、品質の高さで市場の信頼を得ています。

また、一宮町の特産物として、梨がふるさと納税の返礼品に登録されています。収税への貢献と一宮町の観光資源のPRとなっています。

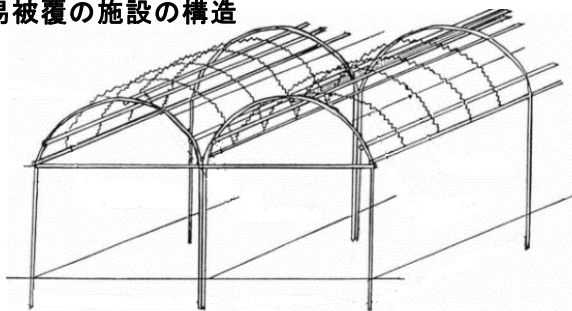
3 市場出荷期間

月	7		8		9			10	
	旬	下	上	中	下	上	中	下	上
幸水		←	→						
		簡易被覆 露地							
豊水				←	→				
あきづき				←	→				
新高						←	→		

4 簡易被覆栽培（雨よけ栽培）

一宮町の簡易被覆栽培は昭和58年に水田転換の事業により「幸水」の栽培で導入しました。被覆期間は3月上旬から5月上旬の2か月間で、作期と労力分散が図られ大玉で高品質な生産となり、露地栽培と比較し1週間程度早く出荷できることから市場では高単価で取引されています。近年、温暖化の影響で休眠打破が遅くなり露地栽培との出荷開始期の差が短縮傾向にあります。

簡易被覆の施設の構造



棚上に簡易なアーチ型のハウスを設置しサイドもビニールを張り、果実肥大期にジベレリンを塗布する。

5 研究部活動

組合の若手後継者が中心となり「研究部」が設置され、検討会などの活動をしています。活動の中で、新しい技術導入の試験や近隣梨産地の研究組織との交流を通じて、情報収集と技術向上を図り、地域全体の栽培技術の向上に寄与しています。



味・品質に優れた「ながいき梨」

花植木ニュース



燃やせる土の鉢花で土の処分の悩みを解決します

千葉県農林総合研究センター
花植木研究室 研究員 室田 有里

鉢花観賞後に土の処分に悩む消費者が多いため、可燃性有機物のみをブレンドした燃やせる土を開発しました。現地ではこれを使って栽培した、可燃ごみとして処分できる苗物や鉢物の栽培が始まりました。

1 はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大への対応として「新しい生活様式」の実践・定着により「おうち時間」が増加する中、花の家庭消費が伸びています。しかしながら、苗物や鉢植えの土は家庭ごみとして処分できないことから、特に庭がないマンション暮らしの方は土付きの植物（鉢花、花壇苗等）の購入を敬遠してしまうことがあります。

そこで、家庭でもっと植物を気軽に楽しんでいただけるよう、観賞後には可燃ごみとして捨てられる燃やせる土を開発しました。

2 燃やせる土について

通常、植物の栽培に使用される土は赤土等をベースにするため、不燃性の鉱物が含まれますが、燃やせる土はピートモス、ココピート、木質チップを原料としています。5号鉢サイズの燃やせる土を焼却した場合（600℃、2時間）の残渣は、20g以下となり、体積もかなり少なくなります（写真1）。

水を含んでも慣行土より約40%軽く、作業労力の軽減にもつながりますが、かん水頻度は同等かやや多くなるなど水管理にはやや注意を要します。また、この土を使って農林総合研究センターや現地での試験から、パンジー、ダイアンサス等の苗物、シクラメン、アジサイ等の鉢物が栽培できることが確認されています（写真2）。昨年12月には燃やせる土で育てたミニシクラメンを試験販売し、消費者の反応について調査を実施し、現在集計中です。

3 現地の動き

燃やせる土というコンセプトの土はホームセンター等で家庭園芸用に販売されていますが、営利栽培に利用できる品質、価格のものはこれまでありませんでした。そこで、現地試験に協力していただいた県内の鉢花生産者達を中心となり、商品開発について考える研究組織が結成され、栽培方法の改良や試作に取り組んでいます。来年度は少し規模を拡大して本格生産に向けたシクラメンなどの試作及び試験販売が予定されています。

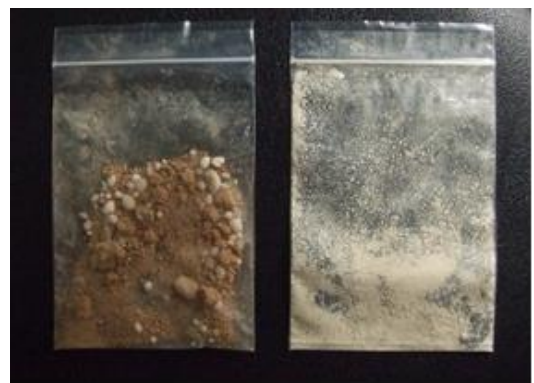


写真1 土焼却時の残渣
（左：慣行土 右：燃やせる土）



写真2 異なる培養土で栽培したシクラメンの草姿
（左：慣行土 右：燃やせる土）



園芸用パイプハウスの防災に係る研修会を開催

千葉県農林水産部生産振興課
園芸振興室 副主査 峰島 恒

千葉県園芸用ハウス防災連携会議では、昨今の気象災害の状況を鑑み、災害に強い施設園芸づくりを目的とした、園芸用パイプハウスの防災に係る研修会を開催しました。県内各地を会場に開催したところ、延べ73名の参加があり、座学、模型の展示を通じて自力施工に係る技術習得を図ることができました。

1 取組背景と概要

本県農業は、令和元年の台風や大雨により、各種施設の損壊や果樹の倒木、農作物の流亡や冠水等、過去に類を見ないほどの大きな被害を受けました。特に、幅広い品目で利用される農業用パイプハウスについては、県全域で大きな被害がありました。

県では、県や国庫の補助事業を活用した被災ハウスの再建や予防的補強を支援するとともに、令和元・2年度にはJA全農ちばとの共催で、農業用パイプハウスの自力施工技術の習得を目的とした自力施工研修会を計6回実施してきました。

令和3年度には、防災意識の更なる向上を図るため、千葉県園芸用ハウス防災連携会議を立ち上げ、「園芸用ハウス防災研修会」を開催しました。7～8月に、千葉県農林総合研究センター（本場、畑地利用研究室、暖地園芸研究所）にて3回開催し、県下全域から延べ73名の参加がありました。

2 研修会

研修会では、JA全農ちばからハウスの補強技術の基礎についての講義と補強モデルハウスの説明、千葉県農業共済組合から園芸施設共済と収入保険の紹介、県からは県内の補強ハウスの優良事例と国庫事業「園芸産地における事業継続強化対策」についての紹介を行いました。県からの説明には、ハウスの補強効果を再現したミニチュア模型による解説を交えたことで、参加者からの関心を得ることができました。

なお、8月6日の研修会を、千葉県の公式YouTube®チャンネル「千葉県セミナーチャンネル」に公開されています。以下のURLまたはQRコードにアクセスし、「1.千葉県園芸用ハウス防災研修会（1時間44分56秒）」から閲覧できます。

参加者からは「手順や必要な道具が分かって良かった」「有事の時に活用できそうな共済制度について学ぶことができて良かった」といった声が聞かれ、ハウスの防災への関心の高まりが伺えました。また、当日のアンケート結果によると、参加者の半数以上が自力施工を予定していることが分かりました。

今後も、農業用パイプハウスの自力施工や補強に係る取組を推進することで、産地の復興と、災害に強い産地づくりに取り組んでいきます。



補強モデルハウスの説明



講義の様子

【ホームページ】

『千葉県農業用ハウス災害被害防止マニュアル』『千葉県農業用ハウス災害被害防止チェックシート集』について

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/jouhou/nougyouyouhaususaigaitaisakumanual.html>)





スマート農業（ハウス内環境制御）のさらなる普及に向けて

公益社団法人千葉県園芸協会
産地振興部 主幹 雲内 浩平

(公社)千葉県園芸協会では、産地連携活動の1つとして、ハウスの環境制御技術の普及に向けた取組を行っています。今年度は指導員のコンサルティング研修会を実施し、将来的に産地の収量増加、ロット確保につなげることを目指しています。

1 はじめに

ハウスの環境制御技術は、環境因子（光・CO₂・温度・湿度など）を測定し、植物の生育に合わせて統合的に制御することで、光合成速度を高め、生産性を向上させる技術です。生産性の向上につながることから、当協会では令和元年度から本技術の普及に向けた取組を行っています。

2 環境制御技術の普及に向けた取組

(1) 令和元年度、2年度の取組

技術習得に意欲の高い農業者学習チーム（以下、チーム）を結成し、各自の取組内容や実績を共有する試みを行いました。県の普及指導員やJAの営農指導員（以下、指導員）はそのサポート役となりました。また、勉強会の効果を高めるため、当協会では本技術の専門である「(株) Delphy Japan」を講師とした現地研修会を企画し、採択したチームへのコンサルティングを行いました。

令和元年度は2チーム（旭・大網白里、品目：きゅうり）を、令和2年度も別の2チーム（東葛飾・旭、品目：トマト）を対象に、各4～5回の現地研修会を行ったところ、それぞれの生産者が取り組むべき項目が明確となり、初年度から収量が向上した生産者も見られました。



写真1 農業者学習チームへのコンサルティング（令和2年度）

(2) 令和3年度の取組

(1)の取組については、県で補助事業の対象となったため、当協会では、これまでの取組を更に発展させるべく、新たに以下の取組を行っています。

ア 現場の指導員を主対象としたコンサルティング

実際に環境制御技術の指導を行っている指導員をモデルに、専門家（(株) Delphy Japan）が指導方法等のコンサルティングを行っています。これによって、より高度な現場指導が可能となり、産地の更なる発展につなげることを目指します。

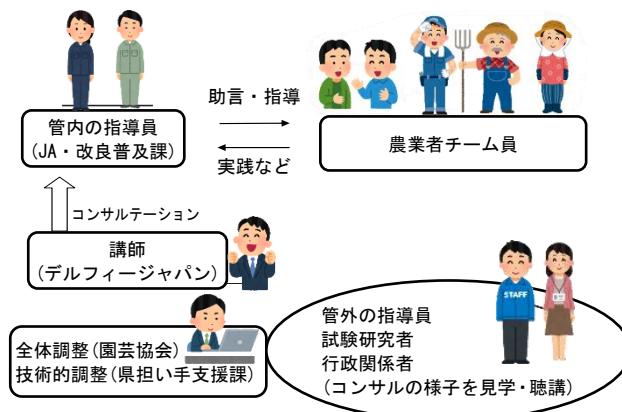


図1 令和3年度研修会におけるコンサルティングの実施イメージ

イ 技術に関心のある指導員を主対象とした講義

(1)の取組を活性化していくには、まず、農業者や産地に直接接する指導員が技術（知識・考え方等）を身につける必要があります。そこで、環境制御技術の基本について、専門家によるテーマごとの講義を企画し、技術の向上を図っています。

上記ア、イを組み合わせた研修会を、本年度は月1回のペースで計6回企画しています。また遠方の指導員や関係者がより多く参加できるよう、Zoomを利用したオンライン研修会としました。

指導員からは、上記アにより、「日々の現場指導で疑問に思う点が解決された」「農業者に対し、より自信をもった指導が可能になった」などの声が上がっています。また、上記イにより指導員が知識を重ねていくことで、更なる(1)の農業者学習チームの育成が可能となり、産地の発展につなげることを目指しています。

“房総みかん美味コンテスト” 開催結果

千葉県農林水産部生産振興課

11月20日(土)・21日(日)に「房総みかん美味コンテスト」を開催しました。「温州みかん」「ゆず」「レモン」60点の出品がありました。1日目は千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所において専門家による厳正な審査を行い、特別賞14点、奨励賞6点を決定しました。2日目は消費宣伝として、イオンスタイル木更津店において出品物の展示と販売を行いました。

コンテストに出品された選りすぐりの「温州みかん」は、品質が良く糖度も高いものでした。「ゆず」及び「レモン」についても、外観に優れ、消費者の皆さんに房総のかんきつを知っていただく良い機会となりました。



専門家による厳正な審査



出品物の展示・販売
(イオンスタイル木更津店)

賞名	所属組合名	氏名	品目
千葉県知事賞	JA安房丸山柑橘部会	小柴 健一	温州みかん
千葉県農林総合研究センター長賞	三芳柑橘組合	高橋 和徳	温州みかん
安房農業事務所長賞	千倉柑橘組合	安田 義昭	レモン

第70回関東東海花の展覧会の開催

千葉県農林水産部生産振興課

関東東海花の展覧会は、千葉県を含む関東東海1都11県の生産者が育てた自慢の切花や鉢花など約2,000点が集まる、日本で最大規模の伝統ある花の展覧会です。千葉県からは、約200点が出品予定です。

- 主催 第70回関東東海花の展覧会【構成団体：関東東海1都11県及び全国花き関連6団体】
- 会期(一般公開) 令和4年1月28日(金)～30日(日)
(公開時間) 1月28日(金)13:00～18:00(最終入場17:30)
1月29日(土)10:00～18:00(最終入場17:30)
1月30日(日)11:00～15:00(最終入場14:30・出品物即売会のみ)
- 会場 サンシャインシティ文化会館2階 展示ホールD(東京都豊島区東池袋3-1-4)
- 内容 花き品評会、フラワーデザインコンテスト、花の装飾展示、園芸教室、出品物即売会など

入場は事前WEB予約が必要です

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、入場には事前WEB予約が必要となります。詳細はホームページ又はQRコードからアクセスしてください。入場は無料です。

URL <https://www.e-tix.jp/hanaten70/> ※予約開始：令和4年1月4日(火)正午から

【問合せ】千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室 電話043-223-2871



事前WEB予約

ちばの郷土料理 再発見！～知って、見つけて、ちばの味～

千葉県農林水産部流通販売課

「ちばの郷土料理」の魅力をより多くの方に知っていただくため、郷土料理を提供する店舗が掲載されたパンフレットを作成し、令和4年1月15日(土)から、県内の道の駅等で配布するほか、インターネットで紹介を行います。

また、「おすすめ」の郷土料理や、パンフレット又はインターネットで発見した「食べてみたい」郷土料理をアンケートで答えると抽選で100名様に、「チーバくん文房具セット」が当たります。たくさんのお応募をお待ちしております。

【応募期限】

令和4年2月15日(火)まで

【応募方法】

WEBから応募、又は道の駅などで配布するチラシ※についている応募はがきに63円切手を貼って郵送で応募。
※1月15日(土)から配布

【問い合わせ先】

千葉県農林水産部流通販売課
電話043-223-2963

応募はこちらから→

